

## 令和3年度 学校総合評価

### ○今年度の重点目標に対する総合評価

今年度の重点目標として、①集団活動の中で自分の役割を知り、自立した生活を送る姿を目指す学習指導の充実（中学部）、②児童生徒の手洗いの意識や技能の向上、③コロナ禍での充実したPTA活動の企画、の取組3項目を挙げた。

重点項目の評価については、「8 学校アクションプラン（様式5）」に記載のとおり、達成度及び具体的な取組状況から総合的に判断して、3項目全ての取組において「達成した」とした。

学校評議員からは、重点項目について「具体的な取組状況から、重点項目はそれぞれの当初の目標を達成している」との評価をもらった。また、各重点項目について「共通の観点で評価できるツールを活用するなどして、着実に授業の改善が進んでいる。」「生徒が集団活動の中で自分の役割を知り、自立した生活を送るために継続的に実施していったほしい。」「手洗い講座や手洗いチェック表は、各学部段階の児童生徒にわかりやすい内容だった。」「手洗いの習慣化を考えると、今後家庭等に手順表を配布する支援もよいのではないか。」「活動が制限される中、創意工夫して実施している。」「地域の資源を活用して、保護者同士の顔の見える交流の場を作っていく必要がある。」など貴重な提言をもらった。

### ○次年度へ向けての課題と方策

学校評議員からの提言をうけて、今年度の重点課題は次年度に次のように繋げていきたい。

- ・ 「作業学習」と関連する「国語科」「数学科」において、授業づくりの充実を図る。
- ・ すぐには自主的な行動につながらない場合が多いが、タイミングを逃さず、手洗い指導を根気強く続けていく。
- ・ 新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、防災活動や奉仕活動、地域の団体とも連携した行事なども実施できるか検討していく。

また、次年度に向けては次の課題について取り組むこととしたい。

- ・ 児童生徒の主体的に取り組む意欲を養うため、気軽に教員同士で授業を見合い、学習活動を工夫するなど日常的に授業改善に取り組んでいく。
- ・ 多様な実態の生徒の卒業後の生活を見据え、個に応じた進路選択をできるように進路支援の充実を図る。
- ・ 児童生徒の日常生活の豊かさを目指し、読書に親しめるよう図書環境の充実を図る。

○今年度の重点課題（学校アクションプラン）

| 令和3年度 にかわ総合支援学校アクションプラン - 1 - |  |   |
|-------------------------------|--|---|
| 重点項目                          | 学習活動（中学部）  |   |
| 重点課題                          | 集団活動の中で自分の役割を知り、自立した生活を送る姿を目指す学習指導の充実  |   |
| 現 状                           | <p>一昨年、昨年と、学部課題を「集団の中で身近な人と関わりながら、自分の役割を果たす姿を目指す授業の在り方」として、作業学習を取り上げ、「中学部の作業学習で付きたい力」や「作業学習における目標」を検討し、指導案検討や授業改善等を行いながら授業づくりを行った。</p> <p>生活に生かすことができる学習内容及び教材の工夫や、友達と協働する学習場面を多く設定したことで、生徒同士で伝え合ったり、友達の様子を見て自分から活動に取り組んだりする様子がみられるようになった。更に、目標が達成できたかどうかを教師と一緒に振り返ることで、前向きに次時の目標を考える生徒の姿もみられた。一方で、学習を振り返ったり、自己評価や他者評価を受け入れたりすることが難しい生徒の姿もみられる。</p> <p>今年度は、生徒たちが学習活動での自分のすべきことや役割を理解して目標達成に向けて取り組み、友達と共に活動する喜びや達成感を味わう経験を積み重ねることを軸として授業づくりを行っていきたい。</p> |   |
| 達成目標                          | 授業づくりの学習会 実施回数   | 対象授業の検討会 実施回数   |
|                               | 年3回以上  | 年3回以上   |
| 方 策                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○学習指導要領に基づいて行う</li> <li>○学習会のテーマ                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科等を合わせた指導</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの視点での授業づくり</li> <li>・観点別学習状況の評価等</li> </ul> </li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>○対象授業「作業学習」</li> <li>○検討内容                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・目指す生徒の姿について</li> <li>・生徒の指導目標や指導内容、支援方法等（個別の指導計画に記載）について</li> </ul> </li> <li>○方法                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・「教師のための授業改善ポイント」の活用</li> <li>・学習会の活用</li> </ul> </li> </ul> |
| 達成度                           | 3回実施   | 5回実施  |
| 具体的な取組状況                      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・育成を目指す資質・能力の三つの柱に基づき、目指す生徒像の具体的姿について、検討し共通理解を図った。</li> <li>・学習指導要領「職業・家庭科」の改訂の要点、目標等を精読し理解を深めた。</li> <li>・学部作業のペットボトルリサイクル班が作成した評価規準を例に表記の仕方等を確認した。アルミ缶班、紙パック班でも同様に評価規準を作成し、授業に生かすことを共通理解し作成、授業づくりを実践した。</li> <li>・主体的・対話的で深い学びの視点での授業づくりについて、「教師のための授業改善ポイント」と関連付けて共通理解を図った。</li> </ul>   | <p>1学年作業学習クラブ「みんなに喜ばれるよい製品を作ろう～リサイクル袋づくり～」の授業を取り上げ、指導案検討、授業参観、事後研修会等を行った。「教師のための授業改善ポイント」を活用しての授業参観、評価規準をもとに観点別学習状況の評価等を行った。事後研修会では、目標を達成するために、主体的・対話的で深い学びの視点で、学習活動や支援環境等の改善案の検討や意見交換等を行った。1学年及び他の学年の作業学習において、学部研修会での意見等を生かして授業づくりを進めた。成果と課題及び学部教員へのアンケート結果をまとめ、「目指す生徒像」等について共通理解を行った。</p>   |
| 評 価                           | A  | <p>学習会等を行い、授業づくりを進めた結果、授業の目標をおおむね達成することができ、生徒の「よい製品」作りを目指し、正確、丁寧に、手順どおりに取り組む姿や、友達と協力して作業テーブルや道具等を運ぶ姿、目標が達成できたか振り返り、次時に気を付けることを考えて発表する姿等が多くみられるようになった。</p>   |
| 学校関係者の意見                      | <p>多忙な業務の中で学習会、検討会を実施することは苦勞もあると思うが、授業改善ポイント・授業観察シートを使い、共通の観点から評価できるツールを活用するなどして着実に授業の改善が進んでいる。生徒が、集団活動の中で自分の役割を知り、自立した生活を送るために継続的に実施して欲しい。</p>  |   |
| 次年度へ向けての課題                    | <p>・各教科等を合わせた指導「作業学習」の授業づくりの成果と課題を生かし、生徒の実態や家庭を含む地域の現在及び将来の姿を踏まえ、関連する「国語科」「数学科」において、授業づくりの充実をいかに図り、継続し積み重ねることができるか。</p>  |   |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

|                    |  |   |
|--------------------|--|---|
| 重点項目               | 学校生活（保健部）  |   |
| 重点課題               | 児童生徒の手洗いの意識や技能の向上  |   |
| 現 状                | <p>学校生活の手洗いの機会としては、登校直後、トイレ後、給食前、歯磨き前後、清掃活動後、教室以外の活動後、下校前等、日に十数回あり、児童生徒の実態に応じて手洗い学習を行っている。</p> <p>手洗いは感染症予防に有効な手段である。児童生徒の手洗いの実態はさまざまであるが少しでも自分で丁寧な手洗いができるよう、また、自分から手洗いに取りかかるように意識を高め、ていねいな手洗いの仕方及び清潔についての知識を継続して学習できるように取り組みたい。</p>   |   |
| 達成目標               | 手洗い週間を各学期に実施する。（年間3回）  |   |
| 方 策                | <p>○手洗い週間を各学期に1回程度実施する。</p> <p>7月...手洗いミニ講座（学年毎、3密を避けた学習グループ単位）の実施</p> <p>11月...手洗い歌の校内放送と手洗いポイント紹介、ハンカチ交換の呼びかけのポスター制作等、中高等部の保健給食委員会の活動と連携して行う。</p> <p>2月...手洗い名人表彰と手洗い名人による実演（学部または学年を単位として実施）</p> <p>○児童生徒には、各学期の手洗い週間に合わせて、「手洗いチェック表」を配布し、自己評価したり他者評価を受け入れたりする機会とする。</p>  |   |
| 達成度                | 計画通り各学期に1回実施   |   |
| 具体的な<br>取組状況       | <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期は、各学部で複数の学習グループを設定して手洗い講座を行った。手洗い学習用クリームやブラックライトを活用したり、手洗い前と後に触れた食パンを培養したりすることで可視化し、目には見えない汚れや菌等を少しでも意識できるようにした。各学部の実態に合わせて手洗いしなかった場合の注意点を示し、手洗いの大切さと適切な洗い方を学習できるようにした。</li> <li>・2学期は、給食後の校内放送で、保健給食委員会の生徒による洗い方のポイント紹介をしたり、手洗い歌を流したりして手洗いへの意識を高めた。</li> <li>・3学期は、手洗い名人の選出と表彰を行い、さらなる意識付けを図る。</li> <li>・手洗いチェック表からは、特に小1のほとんどの児童ができるようになった項目が増え学年が上がるにつれ、「言葉掛けがあればできる」というコメントが増えている。中学部高等部では、「歌や手順表があれば一人でできる」と記入している生徒が複数いる等、多くの成長が見られる。</li> <li>・例えば、体育から教室に戻った時等に自分から手洗いに向かったことやていねいに手洗いしていることをその場ですぐ称賛する等、手洗い週間における重点学習を基にし、いつ、どのように手洗いするかという経験の積み上げを支援している。</li> <li>・手洗いチェック表記入による他者評価と自己評価の学習から、自分の行動を客観視する機会となっている。</li> </ul> |   |
| 評 価                | A  | 手洗い講座、チェック表、手洗い歌などを活用・実践し、年間を通して取り組んだことで、手洗いへの抵抗感が減り、確実にかつ時間をかけて手を洗う姿が多くみられるようになった。 |
| 学校関係者の意見           | <p>・手洗い講座や手洗いチェック表は、各学部段階の児童生徒にわかりやすい内容だった。手洗いの習慣化を考えると、今後家庭等に手順表を配布する支援もよいのではないかな。</p>  |   |
| 次年度へ<br>向けての<br>課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ、どんなときに手洗いするか、どのように手洗いするかを理解することは学校卒業後も身近な感染症予防策として有効な手立てである。手洗いの必要性や大切さをどのようにして意識付けするか、さらに毎日の丁寧な手洗いを実行できるよう継続した支援が求められている。</li> <li>・掃除用具使用後や雑巾を洗った後などの手洗いは定着が難しく、言葉掛けが必要である。</li> <li>・すぐには自主的な行動につながらない場合が多いが、タイミングを逃さず、手洗い指導を根気強く続けていく必要がある。</li> </ul>  |   |

（評価基準 A：達成した B：ほぼ達成した C：現状維持 D：現状より悪くなった）

|            |  |                                  |
|------------|--|----------------------------------|
| 重点項目       | その他（総務部）   |                                  |
| 重点課題       | コロナ禍での充実したPTA活動の企画、運営  |                                  |
| 現 状        | <p>昨年度のPTA活動は、新型コロナウイルス感染拡大防止策を行いながら、施設見学・地区別学習会、夏祭りに代えた夏祭りお土産セットの配布、クリスマス会に代えたクリスマスイベントでくじ引きによるプレゼントの配布を行い、好評であった。</p> <p>今年度は、昨年度の取り組みに加え、できなかった活動を工夫して行いたい。</p>   |                                  |
| 達成目標       | PTA活動の実施（年間4回以上）   |                                  |
| 方 策        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・卒業後の進路について考える機会である施設見学・地区別学習会を、バスの台数、見学方法、食事の取り方、学習会の会場設営等を考慮して企画する。（1回）</li> <li>・夏祭りやクリスマス会は、例年150名程度の参加があるため、一堂に会せず夏祭りお土産セットとクリスマスプレゼントを全員に配布する。（2回）</li> <li>・ニュースポーツ体験会は中学部と高等部を対象、ダンスは小学部を対象とする。（2回）</li> <li>・新規の企画として、就労支援事業所や生活介護事業所などを利用している卒業生の保護者を招き、在校生保護者の聞きたい内容に即した講演を行う。（1回）</li> </ul>  |                                  |
| 達成度        | 6回実施   |                                  |
| 具体的な取組状況   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設見学・地区別学習会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止になったが、PTA会員へのアンケートにより相談支援専門員や福祉事業所への質問を調査し、集約した。集約した質問事項を、相談支援専門員（4地区）や事業所（20事業所）への文書と取材による聞き取りを行い、PTA会員の知りたい情報を掲載した報告書を作成した。＜教養部 担当＞</li> <li>・夏祭りお土産セットは、「ワークハウス剣」（事業所）のクッキーと手作りキーホルダーキットを全児童生徒に配布した。児童生徒が装飾したキーホルダーを写真撮影し、PTA広報誌に掲載した。＜地域活動部 担当（広報誌は、広報部 担当）＞</li> <li>・ダンスは、11月27日（土）に小学部児童12名が参加し、インストラクターを講師に、「ツバメ」（NHKの教育番組のテーマ曲）の曲に合わせて楽しくダンスを行った。ニュースポーツ体験会は、12月11日（土）に中・高等部生徒17名が参加し、県障がい者スポーツ指導者協議会の方を講師に、フライングディスク、カローリングボウリング、ボッチャを体験した。＜厚生部 担当＞</li> <li>・卒業生の保護者の講演は、座談会に変更し、11月18日（木）に、生活介護の事業所を利用している卒業生の保護者3名を招き、PTA会員6名が参加した。知りたいことを気軽に聞くことができた、好評だった。＜教養部 担当＞</li> <li>・クリスマス会は、クリスマスイベントに変更して実施した。12月24日（金）に各学年毎に分かれ、全児童生徒が1人1人くじ引きをして、PTA役員からプレゼント（文房具や生活用品等）を受け取った。＜地域活動部 担当＞</li> </ul> |                                  |
| 評 価        | A  | 延期や内容の変更があったが、充実した内容で実施することができた。 |
| 学校関係者の意見   | <p>コロナ禍の中、創意工夫して活動を実施され苦労されたと思うが、保護者の頑張りが伝わった。特に、福祉事業所等の報告書は、保護者の視点であり、素晴らしかった。今後、地域の資源を巻き込んだ交流の場を作ったり、オンラインの活用をしたりしてほしい。</p>  |                                  |
| 次年度へ向けての課題 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら、今年度の反省を踏まえ、より充実した内容になるようにしていく。</li> <li>・PTA役員の意向を尊重しながら、コロナ禍以前に行っていた防災活動や奉仕活動、地域の団体とも連携した行事なども実施できるか検討していく。</li> </ul>  |                                  |